

■ 学校の共通目標

授業作り	重 点	児童が自ら課題を見付け、自ら追究し、自ら表現する学習活動に重点を置いた指導を行う。	中間評価	最終評価
環境作り	点	道徳を柱として、思いやりの心を育む学級・専科経営を行う。		

■ 学年の取組内容

学年	教科	学習状況の分析（10月）	課題（10月）	改善のための取組（10月）	最終評価（2月）
1	国語				
	算数				
学年	教科	学習状況の分析（4月）	課題（4月）	改善のための取組（4月）	中間評価・追加する取組（10月） ➡ 最終評価（2月）
2	国語	<p>学ひらがなの読み書きは、ほとんどの児童が習得している。かたかなや漢字の読み書きが十分に定着していない児童がいる。拗音や撥音が正しく表記できない、小作文において句読点が使えない、誤字脱字が多い児童がいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> かたかな・漢字・拗音・句読点等を、文や文章の中で適切に使用することに課題がある。 気が付いたこと・考えたことを短い文章で表す力の定着が十分でなく、単語表記になりがちな児童がいる。 新出漢字の学習では、一斉指導で画数を数えながら繰り返し学習を実施するも正しい字形で文字を書けない児童が数名みられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 視覚優位の児童に配慮した教材を活用して、文章の中で正しく仮名や漢字を活用できるよう継続指導する。 各教科の学習で振り返りを書く活動をしたり、宿題で週に2回、小作文の課題を出したりして、書くことに慣れ親しませる。 	
	算数	<p>学数の仕組みの理解が不十分で、基礎計算力に課題がある児童がいる。</p> <p>学量感が獲得できておらず、単位換算を伴う問題解決を苦手とする児童が多い。</p> <p>学図などを使って問題場面を表現し、それをもとに式や計算の仕方を説明する能力が身に付いていない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 数の仕組みの理解が不十分な児童がいる。また、基礎計算力に課題のある児童(指を折らないと一位数同士の計算ができない等)がいる。 アナログ時計が読めない児童がいる。また、単位換算を苦手とする児童が多い。 問題場面を図に表すなどして把握することができない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元の学習内容と関連付けて、数の仕組みや基礎計算の復習課題に取り組ませる。また、タブレット端末のデジタルドリルを利用し基礎基本の定着を図る。 日常生活の中で、アナログ時計を読む活動を意図的・積極的に取り入れる。 単元の学習指導と生活科の学習と関連付けて指導し、長さやかさの単位に親しませる。 	
3	国語	<p>調教科の正答率は全国の正答率とほぼ同じであるが、「話すこと・聞くこと」では、全国の正答率では、3.5ポイント下回っている。また「書くこと7」では、3ポイント以上下回っている。</p> <p>学漢字の学習で、正しい漢字を使うことが十分ではない。</p> <p>学作文では、段落や句読点、かぎの使い方が十分ではない。</p> <p>学文章を読み、何が書かれているか大体の内容をつかむことはできる。深く意味を考えながら、想像力を働かせて読む力がまだ十分に身に付いていない児童が多い。</p> <p>学話すこと・聞くことが不十分なので、繋がりのある文章を書いたり、順序よく話したりすることに、苦手意識をもつ児童が多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 既習漢字を正しく使う力が必要である。 作文の書き方の復習が必要である。 課題文を読むとき、筆者の言いたいことを考えて読み、場面を想像して深く読むことに課題がある。 話すこと・聞くことにおいて、特に、聞くことについて相手が何を伝えようとしているのか考えながら聞く力に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 休み時間や放課後で宿題の漢字の直しを行ったり、定期的に漢字の小テストを行ったりすることで、漢字の定着を図る。作文指導で、文章の書き方についての理解への定着を図る。 国語の学習を毎時間振り返りで、文を読んで、気が付いたこと、不思議に思ったこと、わかったことを書かせる。 話を聞くときの観点を明確に示すことで、相手の話の大重要なところを意識して聞くことができるようになる。 	
	算数	<p>調教科の正答率は、全国の正答率を4ポイント上回っているが、正答率の分布率をみてみると、二極化がみられる。</p> <p>学乗法九九や足し算、ひき算の計算を正確に行えず、苦手意識をもつ児童が多くみられる。時刻と時間の計算も十分ではない。</p> <p>学繰り上がりのある計算はほとんどの児童が理解できているが、繰り下がりのある計算は、理解が十分でない児童がみられる。</p> <p>学文章を読んで、立式して答えを求めるることはできるが、図や言葉に表現することに課題の児童が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 乗法九九の7の段以上の習熟に課題が残る児童もある。 「たし算とひき算の筆算」では、4桁—4桁の計算で繰り下がりのある減法について、計算の仕方が十分に身に付いていない児童がいる。 自分の考えを図や言葉に表現することに課題がある児童が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 休み時間や放課後などを活用し、乗法九九(特に7・8・9の段)の習得を図る。日常生活の中で、時刻と時間を使うような場面を意識的に設定する。 休み時間や放課後などを活用し、2桁—2桁の繰り下がりのある減法について、プリント等を活用して、繰り返し復習することで、定着を図る。 図や式、言葉を使って表現する活動を多く設け、解決の見通しをもたせるようにする。 	

4	<p>国語</p> <p>調 教科の正答率は、全国の正答率とほぼ同じ正答率となっているが、新宿区の正答率では、約4ポイント下回っている。領域別正答率では、「書くこと」が25ポイントも下回っている。</p> <p>学 第3学年までの配当の漢字を読むことに関しては概ねできているが、文章を書く際に、既習漢字を使えないことがよくある。</p> <p>学 物語文や説明文において、概ねすべての児童が登場人物の心情や文章の内容を読み取ることができていた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・文章を書くときに既習漢字を使って書く力を付ける必要がある。また、字形や書き順を意識して文字を書く習慣も身に付ける必要がある。 ・第3年生までの配当漢字を書いたり、それを文の中に用いたりすることにおいて課題が見られる。 ・話すこと・聞くことにおいて、内容を聞き、理解することに課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・週末の家庭学習で日記に取り組ませ、ノートの添削をし、間違いを正しく書き直すことで正しく漢字を使う力の定着を図る。 ・デジタルドリルの活用することで、問題を解く経験を多く積ませる。 ・漢字小テストを定期的に実施することを通して、間違えた問題は、繰り返し練習させ習熟を図る。 ・学習中の発表や友達との話し合い活動の中で、ノートに自分の考えを整理する時間を重視し、発表させる。 		
4	<p>算数</p> <p>調 教科の正答率は、全国の正答率を上回り、領域別の正答率も全て上回っている。しかし、正答率分布率では、二極化がみられ、全体的な底上げが求められる。</p> <p>学 自分の考えを図や式、言葉に表現することに課題がある児童が見られる。</p> <p>学 乗法九九やたし算やひき算の計算が正確でなく、苦手意識をもつ児童が多く見られる。</p> <p>学 定規を使って線を引いたり、作図をしたりする技能が身に付いていない児童が多く見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを図や式、言葉に表現することに課題がある児童が見られる。 ・乗法の九九やたし算やひき算の計算を正確に行うことが課題である。 ・定規を使って正確に線を引いたり、三角定規やコンパスを使ったりする技能に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図や式、言葉を使って表現する活動を多く設け、解決の見通しをもたせ、自力解決させる。 ・家庭学習において、デジタルドリルを活用し、計算の正確さを向上させる。 ・日頃の授業の中で、定規を使って正確に線を引いたり、分度器やコンパスを使って作図したりして、作図技能を向上させる。 		
5	<p>国語</p> <p>調 教科の正答率は、全国の正答率と同じ水準である。領域別では、「情報の使い方」では、6ポイント以上上回る。</p> <p>調 文章を書く力が全項目において全国平均を7ポイント下回っている。</p> <p>学 漢字の定着に個人差がある。</p> <p>学 自分の思いや考えを話したり、友達の意見を聞いたりする力が不足している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・構成を考えたり、事実と考えを区別して伝えたい事だけを書いたりする指導が必要である。 ・日常的に漢字を使わせて慣れさせる必要がある。 ・語彙力を高め、自分の考えの主張と、相手の考えへの共感や反論を指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマを設け、分量を指定したり、条件を設けたりして「書くこと」に慣れさせていく。 ・辞書を引くくせをつけ、分からぬ漢字や間違っている漢字を自分で訂正できるようにする。 ・話し合い活動を多く取り入れ、環境を整えていく。 		
5	<p>算数</p> <p>調 教科の正答率は、全国の正答率よりも5ポイント上回る。また、領域別でも全ての領域で全国を上回っている。</p> <p>学 自分の考えを表現することに課題が見られる児童が3割程度見られる。</p> <p>学 筆算（特にわり算）の位取りができず、苦手意識の高い児童が2割程度いる。</p> <p>学 公式を知識として知っているが、それまでの過程を考える力が乏しい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・考えをもてず、考えることからも逃げてしまっている児童へ支援が必要である。 ・計算をめんどくがり、暗算でやってしまうことでミスが多く発生している。 ・公式にたどりつくまでの思考力が弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒントカードを活用し、自力解決を促す。 ・途中式の必要性を指導し、必ず書くようにする。 ・公式を見つけるまでの過程が、他教科やその後の学習に生かせることを指導していく。 		
6	<p>国語</p> <p>調 教科の正答率は、全国平均とほぼ同じ正答率となっている。「言語の特徴の使い方」「言語文化」など、言語の使い方では、正答率が全国平均を下回っている。「読むこと」では、全国の正答率を7ポイント上回っている。</p> <p>学 学習中で自分の意見を主張し、相手に納得させる力が不足している。</p> <p>学 漢字の理解や定着に時間がかかる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人の話を聞き、正しく理解しながら自分の考えをもつ指導の必要がある。 ・自分の主張をはっきりさせ、文の構成を考え、その理由や裏付ける事例を記述できるよう指導する必要がある。 ・言語に対する知識を増やし、読解力を高めていく。 ・普段から学習した漢字を使うようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書に関連する本の併読などできる環境を整え、文を読み理解する機会を増やす。 ・毎時間の授業の振り返りの記述や、毎週の作文（家庭学習）の取り組みを細かく教員が添削し、指導する。 ・学習中、児童がたくさんの言語や漢字に触れられ、語彙が増えるよう意識する。 ・デジタルドリルを毎日の課題に取り入れる。 		
6	<p>算数</p> <p>調 教科の正答率は、約7ポイント全国の正答率を上回り、「データの活用」では、13ポイント上回る。</p> <p>学 計算はできるが、立式の理由など、答えにたどりつくまでの思考力が弱い。</p> <p>学 教えられた公式を使って問題を解くことは容易だと考える子が多い。どうしてその方法になるかを考えることが苦手な児童がいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・立式の際に、書かれた数が何を表しているのかを考えさせるようする。 ・問題解決の方法を教えられて学ぶのではなく、既習事項などから、自主的、主体的に考える習慣を付ける必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で、必ず自分の考えとその理由を書くようにする。 ・課題を解決するために、自分で考える時間、考えを記述したり、発表したりする時間を十分にとり評価する。 		

音楽	<p>学の学年も進んで音楽活動に取り組める児童が多い。 歌唱…発達段階に応じてのびのびと歌っている児童が多いが、曲想に合った歌い方を工夫して表現することが十分でない。 器楽…技能面に個人差がある。繰り返しできるまで練習することが苦手。音色を意識して演奏することが十分でない。 音楽づくり…グループでの創作活動に、進んで取り組める児童が多い。音楽のしくみや構成を考えてつくることが難しい。 鑑賞…楽しんで鑑賞をしている。〔共通事項〕などを手掛かりにして聴き取ろうとしている。</p>	<p>歌唱…曲想に合わせて歌い方の工夫をすることがまだ十分でない。 器楽…個人差がある。演奏を工夫するための技能が十分でない。繰り返し練習が苦手な児童が多い。 音楽づくり…音楽のしくみや構成などを考えて音楽をつくることが難しい。 鑑賞…〔共通事項〕を手掛かりとして聴き取ることはできるが、楽曲全体を味わって聴くところまで至っていない児童が多い。言葉での表現が難しい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・思いをもてるようにするために、曲の雰囲気や特徴に気付き、感じ取らせるような言葉かけの工夫をする。 ・個人練習の時間をとり、一人一人の到達状況を把握して支援する。 ・〔共通事項〕など視覚的に確認できるように教室に掲示する。 ・ワークシートに聴き取ったことや感じ取ったことをメモできるようにし、学習のまとめの際に、楽曲全体を通した感想または、紹介文を書けるようにする。
図工	<p>学平面作品に比べ、立体や工作に表すことに意欲的な児童が多い。 学絵の具の濃淡や筆使いなど基本的な使い方の習得が必要である。 学自分の作品に向かい、よりいいものを目指すような粘り強さをもつ児童が多くない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・形をとることや絵の具への苦手意識が平面への苦手意識につながっている。 ・作品づくりの構想段階で課題をもつ子、深める段階で課題をもつ子と学年に応じた課題がある。 ・抽象的な物事を絵や立体に表すことを苦手とする児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・形をとる経験も必要だが、色彩を楽しむ活動を各学年計画する。 ・発想を広げるために、タブレット端末を活用する。具体的には友達の考えと比較して考えさせるために活用したり、全体を投影し、作品鑑賞したりする活動に取り入れる。 ・抽象表現は、言葉から広げて色彩や形に意味を感じさせてみる。
特支			

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト、デジタルドリル等から見える学習の状況

※分量は2ページ以上となってもよい。